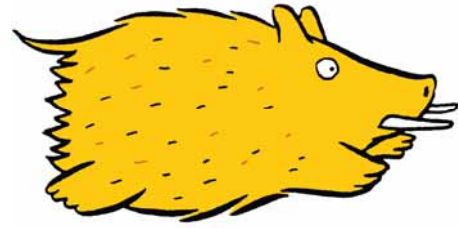




あれ！トマソン隊じゃあ無いのか



明治記念館

by うさお



電車で通勤する時間は、おおよそ 50 分、その間で座席に座れるかどうかは、その日の運。たった、一駅で座れるときもあれば、東京駅まで延々立っているときもある。そんな立っているときによく見かけたのが、大井町駅を過ぎた辺りの煉瓦造りの鉄道施設。今でも現役らしく、会議とかで使っているようだ。

という訳で早速、現地に見に行きました。以前、三浦港にマグロ丼を食べに行った帰りに、ライ隊員が降りたい、降りたいと騒ぎ出し、それからどうやら車での探検は拒否するようになり

ました。それで今回からライ隊員はお留守居番ということになりました。

さて、大井町というところは随分と昔の遺跡が残っているところで、板垣退助のお墓や智恵子抄の碑跡、ゼームス坂、くらやみ坂、幽霊坂など個別に足で歩くと大変面白そうなところ。それはまたいつかご報告するか、矢澤さんに実際足で回ってもらうか、兎も角も今回はこの建物を見てみましょう。

JR大井町駅の周辺の街路灯には子供か小人が取り付けられている装飾物が付いて





いる。また、大井町は彫刻が多い町でも知られているよ。高村光太郎のお蔭か？

駅の脇の道を辿って行く。

小洒落たお店が多く、若い人の穴場の通りだ。



目的とする建物は、東京総合車両センターの中にあるこの煉瓦積みみの建物。冒頭の地図の下のほうの赤い屋根の建物がそれ。

この東海道線に沿ったこの道は春には桜並木で有名などころ。



どのような由来のものが、意外に判明しない。部下の「鉄ちゃん」に聞いてみたが、何だか頼りない返事。

この煙突は後からのものだろうが、この建物の用途が推測できない。大会の立看がよく出ているよ。



このセンターは夏休みに一般に公開をすることがあるので気にしていた。今年は8月25日だったので出かけてみたが、ここは今までにも開放されていなかったんだって。ちえっ！

この写真はJRの敷地内にCaccoがズカズカと入り込んで撮った貴重なもの。



さすがに年代を感じさせる窓のアーチ。でも昔の人は結構小憎いレリーフや飾り縁を付けて、何となく明治、大正の情緒を感じさせるぞ。

先ほどのフェアのJR東日本の担当者に聞いたら、ボイラー棟なんだって。まだ使っているそうだ。



東京総合車両センター夏休みフェアの中の展示で見つけた昔の写真。

大井町駅付近には同系の建物が数棟あったようだ。

残しておけば良いのと思うことと、年に1回は市民開放しましょうよ。



これはセンターの建物を探しにこの辺りを流していたときに、Caccoが「あっ、すごいもの見つけ!」と言って無理やり車を止めさせた。

当時の煉瓦の壁の押さえの構造が良く似ており、同じ設計者の手になるものかと思っちゃう位だ。

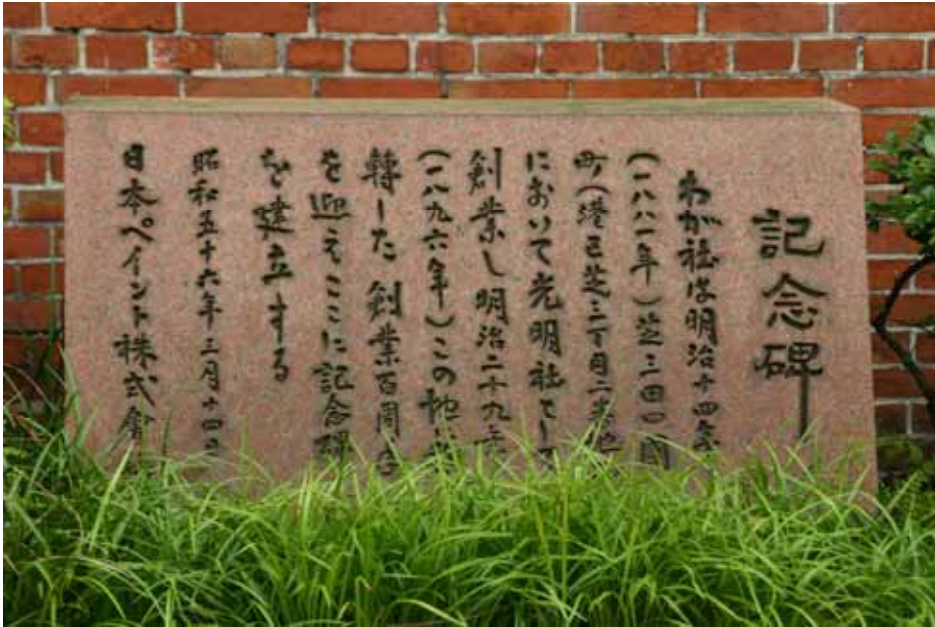


なかなか由緒のありそうな風格のある建物でした。ここは日本ペイントの工場群の中にある古い倉庫をそのまま残してあるようでした。



早速 Cacco が交渉に走ります。日曜日だったのにも係らず、女性の警備員さんが快くOK!

どうやら創業当時の工場の跡を、社の歴史を辿る「明治記念館」としたらしい。



何と別の男性の警備員の方が出てきてくれて、私たちだけのために開けてくれることになりました。親切です



鉄の扉を開くと格子造りと植物が柔らかさを醸し出します。

さすがに中は暑かったですけど、煉瓦が外界の熱を遮ってそんなに心地悪くなかった。



基本的には塗料製造業者の光明社の設立時の遺物が展示されています。そう言えば建設会社に入社した頃の、錆止めを「光明丹」と称していた。あの珊瑚色の下塗り剤ね。

正しくは鉛丹。この会社の有力商品だったのかも知れない。



国産ペイントのあゆみ

「1878(明治11)年、茂木兄弟(春太・重次郎)は、日本で初めて乾溜法による亜鉛華の製造に成功、続いて明治13年(1880年)には、亜麻仁油を用いた固練ペイントを試作、これを翌年の第2回勸業博覧会に出品して褒賞を受賞を得た。当時海軍では、輸入の艦船用塗具(溶解ペイント)の国産化を試みていたものの果たせなかった。そこで茂木重次郎と田川謙三(製油)、橋清太郎(光明丹製造)は共同組合を組織し、茂木兄弟の固練ペイント製造技術を軸に塗具の製造を計画し、明治14年10月に東京の三田四国町に「光明社」を設立した。約300坪の敷地と三棟の建物にはじまる「光明社」の創業によって、日本の塗料工業の歴史が始まった。」

当時の塗料剤を粉末にする治具や炉、搬送機などが置かれている。

中2階があり、そこに焼成炉があり、結構手狭に見える工場内にセットされている。

でも建物内の熱気は上のほうに残るので暑かったなあ。

しかし、塗料の原料に亜鉛や鉛、カドミウムなどが使われており、粉塵の中で働く当時の人々のことを考えると、う～んって感じ。いやあ、それにしてもうさおはメタボリックだなあ…。



ここの警備室に感謝の意を伝え去ろうとすると、何と呼び止められてこの帽子を2つも貰った。

うさおとCaccoのどちらが誠実に見たのだろう。兎にも角にも、すごく親切だった。嬉しいです。



今回は煉瓦造りがテーマですので、大井町ゼームス坂を更に品川の方に下っていくと瑞雲山天竜禅寺に突き当たります。

このお寺さんの塀が煉瓦塀で品川区でも有名ならしいです。

この辺りの散策日記はまた別の号で…。(えっ、トマソン隊じゃないの?)

